

[インデックスに戻る](#)

## 4. 場合の数と確率

### 4-2. 場合の数

#### 4-2-1. 和の法則・積の法則

##### 4-2-1-2. 和の法則

(例)

1個のサイコロを2回振る。1回目に出た目を $a$ 、2回目に出た目を $b$ とする。

$a+b=5$ となるのは

1回目	2回目
1	4
2	3
3	2
4	1

の4通りである。また、 $a+b=10$ となるのは

1回目	2回目
4	6
5	5
6	4

の3通りである。したがって、 $a+b$ が10の倍数となる場合の数は

$$4+3=7 \text{ 通り}$$

である。

上の例のように、2つの場合の数を加えることで、別の場合の数を求められることがある。

#### 和の法則

2つの事柄AとBの両方が起こることがないとき（同時に起こることがないとき、起こり方に重複がないとき）、Aの起こり方が $a$ 通り、Bの起こり方が $b$ 通りあれば、AまたはBの起こる場合は $a+b$ 通りある。

[インデックスに戻る](#)